

第56回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年1月27日（金） 10:00-11:20
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、後藤委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員
 - (2) 政府側
宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高見参事官、松井参事官、守山参事官、行松参事官
 - (3) 関係省庁等
文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課長 堀内義規
経済産業省 製造産業局 宇宙産業室長 鶴田将範
JAXA 理事 常田佐久
4. 議事要旨
 - (1) 宇宙基本計画工程表（平成28年度改訂）の決定について
宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。
 - 準天頂衛星の7機体制確立に向けて、1号機のJAXAから内閣府への移管や、2・3・4号機の打上げなど、重要な局面を迎えることから、研究開発についてどの段階でどの程度の性能を目指すかの戦略などオールジャパン体制で取り組んでいく必要がある。
 - (2) 平成28年度補正及び平成29年度当初の宇宙関係予算案について
宇宙開発戦略推進事務局より、平成28年度補正及び平成29年度当初の宇宙関係予算案について説明を行った。
 - (3) 各部会・小委での検討状況について
宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見、質問があった。
(以下、○意見・質問等、●回答)
 - 宇宙システムだけ、自国の政府衛星だけで考えるのではなく、宇宙システム以外の活用や、官民協力、国際協力を考えることが大事。
 - 様々な対策がキチンと機能するためには、日頃の活動の中で意識することが大事であり、机上演習などにより訓練を行う必要がある。

- 米国のミッション・アシュアランスと同じことを、機能保証という訳語は意味するのか。
- 同一の意味とするが、今までの抗たん性という言葉置き換えるに当たって、訳語を置くことで、なじみの薄いミッション・アシュアランスという用語の解説をおこなっている。
- 掲げられた施策をいかに実現するかが重要であり、宇宙産業ビジョンとしてまとめる際には実行可能性を考えた具体策を打ち出して頂きたい。
- 宇宙2法は民間事業者の参入ルールとなるものであり、運用手順を早期に策定することが、宇宙産業の発展につながる。
- 内閣府のS-NET事業、JSSの宇宙ビジネスコート、JAXAの新事業促進部など、宇宙産業の活性化に向けた活動は多く行われているが、相互の連携をお願いしたい。
- 衛星のシリーズ化によるデータの継続性確保については、先進光学・レーダ衛星などのプロジェクトで取り組まれているところであるが、これをいかにビジネスに結び付けていくかが大事。
- 資料は分かりやすくまとめているので、具体的に工程表に組み込みPDCAサイクルを回して頂きたい。

(4) イプシロンロケット2号機、SS-520 4号機の打上げ結果について

JAXAより説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- イプシロンの打上げ成功を嬉しく思う。引き続き後継機の開発に尽力していただきたい。
- SS-520の打ち上げ失敗については、過度に恐れる必要はない。画期的な挑戦であり、ポジティブにとらえるべき。
- 小型衛星のユーザーにとって、単独で打上げできる小型ロケットは念願であり、世界に先んじて成果を上げるために是非再挑戦して頂きたい。
- SS-520による衛星打上げは、日本だけでなく海外も期待していた重要なチャレンジ。スピード感を持って、再挑戦を目指すべき。

以上